



## 自立循環型住宅設計講習会 レポート

平成23年11月28日(月)

芝浦工業大学校名誉教授：三井所清典氏の最新の動向の講演の後、第一部として自立循環型住宅の定義および設計プロセス、更に断熱外皮、日射遮蔽手法、日射熱利用、各設備計画の講習が行われた。最後に第二部として兵庫北の町・まちづくりの会と省エネ住宅の事例発表が行われ、ワークショップ形式の勉強会で講習会は終了した。

最新の動向として三井所教授講演より抜粋。

20年前に環境共生住宅が始まり、10年前に自立循環型住宅そして3年前に全国20地域を指定しエコハウスの取組が行われた。事例として北海道下川町の「自然と馴染む建物」をテーマに土間や吹き抜け空間には床暖房を採用し、上下の温度差を少なくする工夫をした建物でありながら、三重ガラス製木製建具を採用しながらも掃出し窓を多用したものや熊本県での高床式建物の紹介。

2004年の中越地震による長岡市旧山古志村の切妻屋根の再生に地域住民とのやりとりを通して取り組まれた報告がなされた。又、東日本大震災後の復興支援で「地域の復元力となるすまいづくりの連携」として町医者が地域の医療を担っているように、建築も長いスパンで考えて取り組むことも考慮しながら多くの設計者や工務店がチームとして係わっていくことが大事であるということ。

その他に福島県三春町での一戸当たり9坪以下、12坪以下など規模予算縮減の中で全体の風景が良くなる木造建築による応急仮設住宅の復興事例が報告された。



主 催 佐賀の木・家・まちづくり協議会  
実施団体 佐賀県優良住宅建設事業者協議会  
協賛団体 財団法人 建築環境・省エネルギー機構

取材：(社)佐賀県建築事務所協会(田中博昭)